

地域子ども・子育て活動支援助成事業 実施報告書（別紙２）

<p>団体名</p>	<p>てらこみーる実行委員会</p>
<p>取組の名称</p>	<p>食事付寺子屋「てらこみーる」（子ども食堂）</p>
<p>実施場所</p>	<p>「メサ・グランデ」川崎市中原区新城５－１２－１３ →レンタルスペース「ビーボーン」中原区宮内２－１５－１５ ガーデン桜式番館１階（３月度より）</p>
<p>対象地域</p>	<p>川崎市中原区及び高津区周辺等</p>
<p>対象地域の特色・課題</p>	<p>対象地域は、明らかな貧困家庭は多くないものの、いわゆる核家族家庭が多いという特色があり、保護者が多忙で家庭の中で孤独を抱えている子どもたちが少なからず存在していたり、日々の暮らしに追われて家庭外での交流が難しく家庭そのものが地域の中で孤立している状況が少なからずあるものと思われ、その解決が課題となる。</p>
<p>取組の趣旨・目的</p>	<p>本取組は、家庭の貧困や保護者等の力量的限界により孤独を抱える子どもたちに対する無料の学習サポートや食事提供だけでなく、地域の「だれでも」参加できることを前提に、心をゆたかにする季節の食材を取り入れた「たのしくておいしいごはん」を提供したり、季節開催又は不定期開催による体験型ワークショップ等の能動的な活動の充実を図り、寺子屋講師や調理のボランティア等のサポーターのみならず、寺子屋や食事に参加する参加者（大人を含む）全員が相互に主体となって、地域に根付いて家庭や地域の機能を補完する趣旨・目的を有する。</p>

<p><b>実施内容・実施スケジュール</b></p>	<p>食事付寺子屋「てらこみーる」は、平成29年2月より、原則として毎月1回、令和5年2月までは川崎市中原区新城所在のコミュニティ・カフェ「メサ・グランデ」において、令和5年3月からは同区宮内所在のコミュニティレンタルスペース「ビーボーン」にて開催されている。</p> <p>「てらこみーる」とは、「寺子屋」と「ミール（食事）」を合わせた造語である。調理の時間帯に並行して午前11時から開催される「てらこやタイム」においては、宿題等を持参する子どもたちにボランティアが無料で学習のサポートをしたり、ワークショップを開催したりする。大人も子どもも誰でも参加可能である。勉強をせずに、備え付けの写真集や図鑑を見たり、折り紙やぬり絵などをたのしむこともできる。</p> <p>お昼の12時から開催される「みーるタイム」では、野菜ソムリエが考案したレシピに基づき、18歳以下の子どもに対してはすべて無料で、大人は1名につき500円で、季節の野菜をふんだんに使用した美味しい食事を提供している。</p> <p>「てらこみーる」に参加する子どもたちは、思い思いに、学習や工作をしたり、地域の大人たちと共に調理を体験したり、テーブルごとに「いただきます」をするなどして食事を楽しんでいる。</p>		
<p><b>参加者の年代</b></p>	<p>乳幼児～高齢者</p>	<p><b>定員</b> (1回あたり)</p>	<p>なし</p>
<p><b>実施頻度</b></p>	<p>毎月1回</p>	<p><b>活動日数</b> (年間)</p>	<p>12日</p>
<p><b>スタッフ体制</b></p>	<p>毎回7～13名参加(2022年度実績)</p>		
<p><b>連携する団体・連携の手法</b></p>	<p>本取組は、令和5年2月度までは中原区新城所在の「メサ・グランデ」が、令和5年3月度からは同区宮内所在の「学童保育マオポポ Kids」が共催となっている。</p> <p>令和5年3月度からは、中原区宮内地域にあり、高齢者のグループリビングを運営するNPO法人グループリビング川崎COCO宮内の協力を受け、同法人が入居する建物</p>		

	<p>「ガーデン桜式番館」にて地域のコミュニティスペースを目指す「Be Bone (ビーボーン)」を開催場所として、より地域に密着した形で運営をしていくことを目指している。</p> <p>なお、令和5年4月度から共催となった「学童保育マオポポ Kids」(NPO法人子育て支えあいネットワーク満)は、同建物の2階にあるため、ワークショップ等の開催などに際しても機動力のある協力体制が築かれている。</p> <p>てらこみーる実行委員会として設立にも取り組んだ川崎市内の子ども食堂のネットワーク「かわさきこども食堂ネットワーク」では、本実行委員会の事務局員が同ネットワークにおいて監事を務めている。</p>
<p><b>取組実施により見込まれた効果</b></p>	<p>本取組の特徴は、「みーるタイム」に子どもに対しては無料、大人に対しては安価な食事を提供するだけでなく、調理の時間帯に並行して、通常の子ども食堂にはない「てらこやタイム」を設ける点にある。その結果、参加者同士の距離が近くなり、子どもたちが多くのボランティアや参加者である大人に接することで、社会に多様な大人が存在し、様々な社会人としての姿があることを認識しつつ、地域の大人と接する居場所を提供することができるという効果があった。</p> <p>また、子どもたちが日常の生活に追われる平日ではなく、週末に設定したことにより、子どもたちあるいは子どもたちと一緒に参加する保護者や地域の大人等も普段とは違った余裕のある時間を過ごすことが可能となった。</p> <p>なお、昨年度は新型コロナウイルスの影響がありながらも、感染防止に努めつつ、防災ワークショップを開催したり、アフリカの国(コンゴ民主共和国)出身者を講師に迎えて、同国を学ぶとともにコンゴ料理を提供したり、ネイティブシンガーを迎えて英語の歌を学ぶワークショップを実施するなどした。</p>

以上